2008年3月期 中間期決算 FAQ

Q1: 第2四半期（7－9月期）の業績は想定と比べてどうであったのか？

A1: 第2四半期の半導体売上高については、前期(4－6月期)比約2%増の1,691億円となりました。オールフラッシュマイコンをはじめとする汎用マイコンの売上が好調であったものの、プリンタやDVDドライブ向け半導体の売上が伸び悩んだことなどにより、想定を若干下回る結果となりました。一方、営業損益については、前期比63億円改善し41億円の利益を計上、9四半期ぶりに黒字を回復いたしました。半導体売上高は想定より若干下回りましたが、研究開発費を削減したことに加えて、円安による為替インパクトの恩恵もあり、想定を上回る結果となりました。

Q2: 第3四半期（10－12月期）の業績見通しはどうか？

A2: 第3四半期の半導体売上高につきましては、第2四半期比でほぼ横這いから微減を見込んでおります。これは、テレビやパソコン向けLCDドライバICやデジタルカメラ向け半導体の売上が、第2四半期と比べて減少することが主な要因です。営業損益につきましては、第2四半期と比べ研究開発費や減価償却費が増加することに加えて、円高による為替のマイナスインパクトも想定されますが、固定費削減施策などを進めることにより、営業黒字確保を目指します。

Q3: 為替が円高になっているが、為替のインパクトはどのくらいか？

A3: 1円の円安による営業利益へのプラスインパクトは、米ドルで約1億円/月となっております。ユーロにつきましてはあまり大きな影響はありません。上期トータルでは、期初想定レート115円に対して実績レートが120円と5円円安となったため、営業利益で約35億円のプラスインパクトとなりました。

Q4: 今年度の営業黒字化という目標は達成できるのか？

A4: 目標達成の確度という点では、期初の想定を上回り上期で営業黒字化を達成したことから、その確度は高まっているといえますが、下期については、特に第4四半期の半導体市況について不透明な要素も多いことから、楽観視はしておりません。よって、現時点においては、通期の業績予想を最低限のコミットメントである、年間営業利益黒字化のまま据え置いております。但し、第2四半期に黒字転換した状況を継続すべく、第3四半期、第4四半期についても、二度と営業赤字に転落しないという強い決意をもって事業を運営してまいります。

Q5:前年度比 200 億円の固定費削減計画は順調に進んでいるか？

A:5: 上期は、設備投資や研究開発費の「選択と集中」による効率化や、役員・従業員の報酬カットを含む人件費削減等を着実に実行致しました。

さらに、今年度の設備投資額については、期初計画の約 700 億円から 100 億円減額し、約 600 億円を計画しております。これは主に後工程の投資効率化等によるものです。また、研究開発費につきましても、期初計画の約 1,220 億円から 40 億円削減し、約 1,180 億円とする見込みです。このように、今年度は従来計画を上回る固定費削減を実施する予定です。

以上